

愛視協だより

発行 愛知県視聴覚教育研究協議会

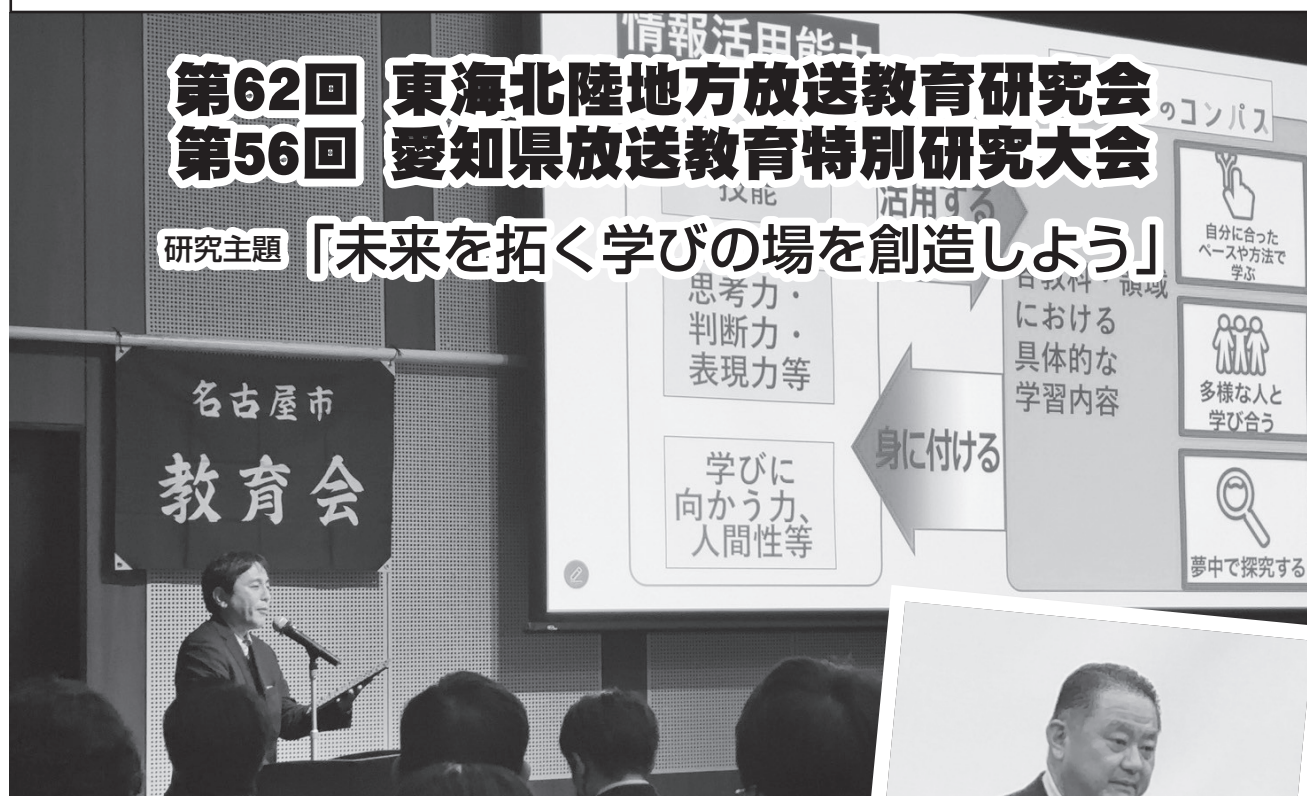
事務局 名古屋市東区東桜1-13-3

NHK名古屋放送局内

TEL (052) 952 - 7293

第62回 東海北陸地方放送教育研究会 第56回 愛知県放送教育特別研究大会

研究主題 「未来を拓く学びの場を創造しよう」



期 日 令和6年8月21日（水）
 会 場 ウィンクあいち（オンライン形式）
 主 催 東海北陸地方放送教育研究協議会
 愛知県視聴覚教育研究協議会 NHK名古屋放送局
 共 催 全国放送教育研究会連盟 一般財団法人NHK財団
 後 援 文部科学省 こども家庭庁 愛知県教育委員会
 名古屋市教育委員会 愛知県教育振興会
 名古屋市教育会 日本教育公務員弘済会



第56回愛知県学校視聴覚教育研究大会 令和6年度 名古屋市情報教育研究会研究発表大会

研究主題 「子どもたちの学びの核となる情報教育
 — 生涯にわかって主体的に活用できる情報活用能力の育成 —」

日 時 令和7年1月28日（火）
 会 場 ウィンクあいち
 内 容 講演、研究発表

子供一人一人を主語にした授業づくりと教育メディアの活用

講師

東京学芸大学教育学部教授

高橋 純 氏

1972年神奈川県横須賀市生まれ。

修士（教育学）、博士（工学）。

富山大学人間発達科学部准教授等を経て、現職。

中央教育審議会「教員養成部会」臨時委員、中央教育審議会「デジタル学習基盤特別委員会」委員長代理、文部科学省「今後の教育課程、学習指導及び学習評価等の在り方に関する有識者検討会」委員、文部科学省「学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議」委員等を歴任。第17回日本教育工学会研究奨励賞受賞、日本教育工学会理事、日本教育メディア学会理事、独立行政法人教職員支援機構フェロー、日本教育工学協会会長、東京都教育委員会委員など。

東京学芸大学教育学部総合教育科学系教育学講座 教授。



提案者 提案1 中村 俊雄（岩倉市立曽野小学校） 提案2 飯田 淳一（金沢市立森本小学校）

助言者 杉山 祐子 教授（中部学院大学）

提案1では、NHK for Schoolの道徳教材を活用し、自分の意見や立場を考えて、仲間と関わり合いながら新たな考えをみつけ、一人一人の多様な考えを大切にする、小学2年生の道徳科における実践が報告された。児童はロイロノートを用いたワークシートを活用しながら、考え議論し、意見を出し合うことができていた。グループで意見をまとめるときは、互いの考えを大切にしながらワークシートに記述することができており、全員参加で学び合う活動が行われていた。

提案2では、NHK for Schoolの音楽教材やYouTubeの動画教材を活用した、小学2年生の音楽科における実践が報告された。拍子やリズムを意識して歌などに合わせてリズム伴奏をすることに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組み、拍子やリズムに対する感覚を養うことを目標として活動が行われていた。お手本動画を活用したことで、活動に取り組む意欲が高まり、リズム譜を見ながら演奏する技能を身に付けた児童が増えた。クラス全員で楽しみながら主体的・協働的にリズム遊びの学習活動に取り組んで、拍子やリズムに対する感覚が養われていた。

助言者からは、提案1に対して、答えの出ないものに対して、子供たちが自分の意見をもって他人の意見を確認していく活動をしており、素晴らしいアクティブラーニングの活動であり、実践として成果を出すことだけでなく、その過程も大事にしていることが伝わるとのことだった。提案2に対して、知識・技能の観点に当たる内容であり、答えのある単元であったことで、実践の内容が分かりやすいものになっていた。子どもたちの自己効力感は何ものにも代え難いものであり、そこを上手に刺激しながら、子どもたちに教材を示すことができており、先生のねらいに合っている実践であるとのことだった。

- 提案者** ▶ 提案1 水野 隼人（名古屋市立徳重小学校） 提案2 小木曾 弘尚（豊田市立梅坪小学校）
 提案3 高倉 宏昌、江澤 隆輔（坂井市立三国中学校）
- 助言者** ▶ 平野 光也（豊橋市立本郷中学校）

提案1では、「自分の課題を見付け、仲間と解決する子」を目指し、協働学習支援ソフトやNHK for schoolの放送番組を活用した体育科の実践が報告された。「個人で振り返る活動」では、協働学習支援ソフトで学習の様子を文章や動画で記録できるような振り返りシートを活用した。さらに、「見直し資料」やNHK for schoolの動画を活用したことで、自分の課題や課題に合った解決方法を見付けることができるようになった。仲間と振り返る活動を通して、自分だけでは見付けられない課題を発見し、自分に合った目標で練習に取り組むことができた。

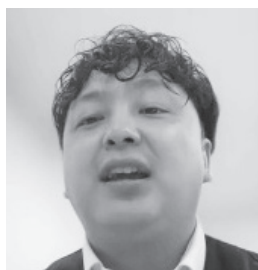
提案2では、学習動画を進んで使いたいと考えている児童が多くいるものの、調べたことから自分なりの意見をもったり、まとめたりすることが苦手な児童の実態から、「学習動画を効果的に活用し、自分の考えを表現できる児童」を目指した理科の実践が報告された。『学習動画の選び方レシピ』や『見方レシピ』といった自作補助資料を取り入れることで、学習動画を効果的に活用できるようにしたり、児童の様子から段階的な支援を行ったりすることで、自分の考えをもち、発表できるようになったと考える児童が増えた。

提案3では、言語活動を活性化させることに加え、ICT機器を活用して学習活動充実させる授業づくりを目指し、各教科において個に応じた学習や思考を深める学習の一端としてSky menuや学習動画を用いた実践が報告された。子どもたちにとって、視覚的にもわかりやすい内容であるため、興味・関心を高めつつ学習意欲を高めることができた。また、学習だけでなく校務での活用を目指したことで、子どもたちとの関わりを増やすことができた。

助言者からは、「メディアの有効な利用」、「今後、注視すべきこと」の2つの視点から助言をいただいた。メディアの有効な利用については、「メディア体験」「実体験」「言語活動」の適度な組み合わせにより、深い学びにすることができる。現在、タブレットは調べ学習や記録写真、スライド作成などの利用が多い。これらは小学校の早い段階でITスキルとして身につけさせる必要がある。今後については、生成AIとの共存も視野に入れていくことになるため、正しいかどうかの吟味をすることは大切であるとのことであった。

- 提案者** ▶ 提案1 田村 慎吾（名古屋市立野並小学校） 提案2 菅野 謙一（大治町立大治西小学校）
 提案3 野中 慎一（幸田町立北部中学校）
- 助言者** ▶ 倉橋 裕二（一宮市立木曽川西小学校）

提案1では、情報は、その切り取り方によって伝わる印象が変わる体験をさせることを切っ掛けにして、メディアリテラシーを育む実践が報告された。具体的には、同じ海岸の写真をアップで美しい部分だけを切り取った場合と、ルーズでゴミがたくさん転がる海岸全体を切り取った場合で、その写真を使った発信のタイトルを考えさせる活動を行っていた。情報は発信者の意図によって構成されていることを意識させることを通して、情報を正しく受け取ったり、意図をもって伝えたりする力を育てようという授業実践であった。その際、NHK for school「アッ！とメディア ～@media～責任を持って発信できる？ ～メディア・リテラシー～」を活用していた。提案2では、デジタルシティズンシップについての発表があった。家庭での情報機器活用が9割以上に及ぶ状況の中で、自立的、自律的にデジタルを



活用させることを意図した実践であった。SNS上のコメントへの書き込みを例に、インターネット上での行動三原則として「立ち止まる」「相談する」「考える」という姿勢を身に付けさせ、同時に、SNSの利点についても目を向けさせることを通して、実社会で有効に活用していく姿勢を育んでいた。また、実社会での活用の視点から家庭との連携を意図した取り組みについての報告があった。実践の際には、NHK for school「アッ！とメディア ～@media～なぜ起きる？炎上～SNS～」他、いくつかのコンテンツを利用していた。意見交換の中では、デジタルシティズンシップ教育の在り方として「自分事としてとらえさせる」という、視点が示された。

提案3では、情報端末を安全に利用できるようにするための取り組みについて発表があった。手だてとしては4点。①教育目的に利用させるという基本原則を理解させる。②いろいろなアプリを活用して制作活動を行わせることでICT機器の有用性を感じさせる。③情報機器を使う上での問題点を、実際に問題が起きる前に考えさせたり、事件の事例を示したりすることで起きやすいトラブルについて事前に指導する。④著作権教育を通して、自分の制作物や他人の著作物を大切にする意識を育む。これから児童が社会で情報機器を安全に取り扱うことができるようにという考え方のもとに行われた取り組みについて紹介があった。

助言者からは、情報モラル教育が行われるようになった背景や教育政策における位置づけについて、社会的な意義について、学校教育の中での視点として、情報モラルを系統的に指導していくことの必要性についての助言があった。その系統的な指導の手だてとなるのが、教員研修の手引きの中に示されているという指導があった。

提案者 ▶ 提案1 川口 一郎（愛知県立一宮西高等学校） 提案2 荻原 健（光ヶ丘女子高等学校）

助言者 ▶ 山田 公一 氏（愛知県総合教育センター研究部経営研究室）

提案1では、NHKの地震や火山、災害に関連するオンライン動画を使用した実践が報告された。普段より愛知県立新城有教館高等学校へ遠隔授業を行っており、新城市で学ぶ生徒に対し南海トラフ地震の防災意識を高めるため、NHK動画を活用して地震や災害についての正確な知識を身につけさせた。生徒は、NHKアーカイブスにある地震災害の動画を視聴し、実際の被災地の様子を学んだ後、地震ハザードマップを用いて防災対策を考え、グループで意見をまとめた。結果、動画を通じて地震の現実感が増し、主体的に防災対策を考える姿勢を見せた。



提案2では、高校1年生がiPadを使用して動画制作に取り組む実践が報告された。情報Iの授業で、生徒たちは5つのテーマに分かれ、Keynoteと画面収録機能を使って3分間の解説動画を制作した。授業は4回に分けて行われ、動画制作の目的や方法を学び、実際に動画を撮影・編集した。その際、要点をまとめた動画制作の参考としてNHK for Schoolの「10min.ボックス」の映像を提示した。タブレット端末の利便性により、撮影後すぐに映像を確認でき、必要であれば再撮影を行うことができた。そのため、生徒たちは構成や内容を改善するために何度も修正を重ね、より良い動画を目指して取り組むことで協働学習や自己調整能力を養い、主体的な学びの姿勢を育むことができた。制作した動画はクラスメートと共有され、フィードバックを次の制作に活かすことができた。

第28回視聴覚教育総合全国大会 第75回放送教育研究会全国大会 合同大会

大会テーマ 「未来社会に向けて生涯にわたる学びを支えるメディア活用」

オンライン開催と共に参集で授業公開も実施

令和6年11月8日（金） 中野区立上鷺宮小学校

令和6年11月9日（土） ワークショップ・セミナー

全体講演

「生涯にわたって能動的に学び続ける力を育むメディア活用」

東京学芸大学 教授 高橋 純

実践発表

学校ではICT環境を駆使し、society5.0社会へ対応するための新しい学びの創出に向けて実践に取り組んでいる。そのような時代だからこそ「視聴覚教育・放送教育」の果たす役割がますます高まっていると推察できる。

本年度は、オンライン開催と共に参集で授業公開も実施した。オンライン開催では、セミナー2講座、ワークショップ3講座、6つの実践報告等、充実した内容の大会となった。参加者の実践意欲をかき立て、授業改善に役立つ、興味深い内容となった。

第56回愛知県学校視聴覚教育研究大会 令和6年度 名古屋市情報教育研究会研究発表大会

- 1 日 時 令和7年1月28日（火）
- 2 場 所 ウィンクあいち
- 3 研究主題 子どもたちの学びの核となる情報教育
—生涯にわかって主体的に活用できる情報活用能力の育成—
- 4 講演会 講師 信州大学学術研究院教育学系 准教授 佐藤和紀氏
演題 子どもたちの学びの核となる情報教育
—生涯にわたって主体的に活用できる情報活用能力の育成—

5 概 要

(1) 講演

個別最適な学びと協働的な学びを進めていくために、次期学習指導要領・問題解決型の学習とICT活用の相性・子どものタイミングで協働的に学ぶことなどの観点からの話があった。

まとめとして、情報活用能力のカリキュラムマネジメントが必要であること。深い学びを進めるためには、自分で情報を収集・整理・分析・まとめ・表現をしていかないといけないこと。いつまでも先生の用意したものの中でしか学習できないということでは自立した学習者にはならないといった話があった。

(2) 研究発表

1つ目は、アプリを効果的に活用して、自ら学びを深めたり、問題解決したりできる子どもの育成についての発表があった。小6社会科「天皇中心の国づくり」の学習において、主にロイロノートスクールを活用して、教師が示した「目的や理由」「因果関係」「相互関係」「共通点・相違点」などの視点を参考にさせたことが、「世界とのつながり」や「影響を与えた人物」など、自分で新たな視点を発見し、自ら学びを深めるような子どもが増えることにつながった。

2つ目は、メディアの活用やプログラミングを通して、複数の視点や方法で情報を整理して問題解決ができる子どもの育成についての発表があった。小4社会科「ごみの処理と利用」の学習において、「ごみ処理の仕組み」「はたらく人の工夫」「処理されたごみの行方」という三つの視点をもとに情報を収集させたことで、複数の視点からの考察が深まり、多くの子どもが設定した評価基準を達成する姿が見られた。

第41回 NHK杯 全国中学校放送コンテスト愛知県大会

令和6年6月29日(土) NHK名古屋放送センターにてデータ審査で開催

6月29日(土)、県下の17校からのエントリーを受け、録音・データ審査にて第41回NHK杯全国中学校放送コンテスト愛知県大会が行われた。「ラジオ番組部門」5作品、「テレビ番組部門」5作品、「アナウンス部門」28名、「朗読部門」44名のエントリーがあり、これまで培ってきた力を基に成果を競い合った。結果は、下記のとおりである。

ラ ジ オ 番 組 部 門

最優秀 名古屋市立大曽根中学校

「新しい制服」

優 秀 名古屋市立神丘中学校

「五つの星とそれぞれの不満」

入 選 日進市立日進西中学校

「校則ってなんだろう??」

テ レ ビ 番 組 部 門

最優秀 半田市立亀崎中学校

「青春 亀中辞典」

優 秀 岡崎市立北中学校

「片手サイズの危険物」

入 選 名古屋市立神丘中学校

「勝家と名東区 柴田の灯火」

岡崎市立新香山中学校

「変わってしまった日本の宝」

朗 読 部 門

最優秀 名古屋市立神丘中学校 中 瀬 一 花

優 秀 南山中学校女子部 佐々木 心 春
金城学院中学校 照 屋 陽七海

優 良 日進市立日進中学校 森 本 有 美
愛知淑徳中学校 深 谷 瑞 穂
名古屋市立北山中学校 山 北 萌

入 選 南山中学校女子部 向 井 愛衣子
名古屋市立神丘中学校 勝 又 帆 南
椋山女学園中学校 横 田 京 香
日進市立日進西中学校 竹 内 陽 基

ア ナ ウ ンス 部 門

最優秀 名古屋市立神丘中学校 水 野 璃彩子

優 秀 南山中学校女子部 堀 田 采
南山中学校女子部 安 間 恵理子

優 良 金城学院中学校 中 村 朱 那
名古屋市立北山中学校 佐 藤 穂 佳
愛知淑徳中学校 若 松 華

入 選 名古屋市立大曽根中学校 ラウル サンブリッディ
岡崎市立竜海中学校 高 橋 紗 都
名古屋市立神丘中学校 大河内 琴 子
金城学院中学校 岸 部 あいる

第41回 NHK杯 全国中学校放送コンテスト全国大会

予選 令和6年8月3日(土)、4日(日) 非公開

決勝 令和6年8月20日(火)

会場 千代田放送会館

全国大会では、県大会で優良賞以上が全国大会にデータでエントリーし、次のような結果を残した。

ア ナ ウ ンス 部 門

入 選 金城学院中学校

中 村 朱 那